

GRIガイドライン(G4)対照表「特定標準開示項目」

当社のマテリアリティ(重要な側面)をステップ1～ステップ4の手続きに基づいて特定しました。当報告書の特定標準開示項目への対応状況については、以下の通りです。

| 指標 | 記載すべき主な事項 | C S R 報告書 2016 掲載箇所 | |
|--------------------------------|---|---|--|
| | | WEB | |
| 環境 | | | |
| エネルギー | DMA* P6～8,89～92,115 | | |
| G4-EN3 | 組織内のエネルギー消費量 | P94 (省エネルギーとCO ₂ 削減) | |
| G4-EN5 | エネルギー原単位 | P92 (2020年度目標に対する進捗状況) | |
| G4-EN6 | エネルギー消費の削減量 | P98 (駅における省エネルギーの取組み) | |
| G4-EN7 | 製品およびサービスが必要とするエネルギーの削減量 | P98 (駅における省エネルギーの取組み) | |
| 大気への排出 DMA P6～8,89～92,115 | | | |
| G4-EN15 | 直接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ1) | P90 (グループ全体の環境負荷) P95 (CO ₂ 排出量の推移) | |
| G4-EN16 | 間接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ2) | P90 (グループ全体の環境負荷) P95 (CO ₂ 排出量の推移) | |
| 排水および廃棄物 DMA P89～92,115 | | | |
| G4-EN23 | 種類別および処分方法別の廃棄物の総重量 | P90 (グループ全体の環境負荷) P104 (駅・列車からのゴミ回収と再生) P105 (総合車両センター等でのリサイクル) P106 (設備工事における廃棄物の削減) | |
| G4-EN24 | 重大な漏出の総件数および漏出量 | 該当なし | |
| コンプライアンス DMA P89,115,119～121 | | | |
| G4-EN29 | 環境法規制の違反に関する高額罰金の額、罰金以外の制裁措置の件数 | 該当なし | |
| 環境全般 DMA P89,93 | | | |
| G4-EN31 | 環境保護目的の総支出と総投資(種類別) | P93 (環境会計と経営指標) | |
| 社会 | | | |
| サブカテゴリー: 労働慣行とディーセント・ワーク | | | |
| 雇用 DMA P6～8,80 | | | |
| G4-LA1 | 従業員の新規雇用者と離職者の総数と比率(年齢、性別、地域による内訳) | P131 (人材関連データ) | |
| 労働安全衛生 DMA P6～8,17,18 | | | |
| G4-LA6 | 傷害の種類と、傷害・業務上疾病・休業日数・欠勤の比率および業務上の死亡者数(地域別、男女別) | P29 (労働災害の発生状況) | |
| 研修および教育 DMA P6～8,80 | | | |
| G4-LA9 | 従業員一人あたりの年間平均研修時間(男女別、従業員区分別) | P131 (人材関連データ) | |
| 多様性と均等機会 DMA P6～8,81～84 | | | |
| G4-LA12 | ガバナンス組織の構成と従業員区分別の内訳(性別、年齢、マイノリティーグループその他の多様性指標別) | P82 (女性社員の活躍推進) | |
| サブカテゴリー: 人権 | | | |
| 人権に関する苦情処理制度 DMA P54,55,120 | | | |
| G4-HR12 | 人権影響に関する苦情で、正式な苦情処理制度により申立、対応、解決を図ったもの件数 | P120 (コンプライアンス相談窓口) | |
| サブカテゴリー: 社会 | | | |
| 地域コミュニティ DMA P6～8,66 | | | |
| G4-SO1 | 事業のうち、地域コミュニティとのエンゲージメント、影響評価、コミュニティ開発プログラムを実施したものの比率 | 当社グループでは、グループ経営構想Vにおいて、地域との連携強化を掲げており、当項目については、特に鉄道事業が該当します。P66 (地域との連携強化・地方創生について) P68,69 (地域再発見プロジェクト) P70 (「おやつTIMES」) | |
| コンプライアンス DMA P117～121 | | | |
| G4-SO8 | 法規制への違反に対する相当額以上の罰金金額および罰金以外の制裁措置の件数 | 該当なし | |
| サブカテゴリー: 製品責任 | | | |
| 顧客の安全衛生 DMA P6～8,17～25 | | | |
| G4-PR1 | 主要な製品やサービスで、安全衛生の影響評価を行い、改善を図っているものの比率 | 当社グループでは、グループ経営構想Vにおいて、「究極の安全に向けて」を掲げており、当項目については、特に鉄道事業が該当します。P30～34 (安全性向上の取組み) | |
| G4-PR2 | 製品やサービスのライフサイクルにおいて発生した、安全衛生に関する規制および自主的規範の違反事例の総件数(結果の種類別) | P26～28 (JR東日本の安全の現状) | |
| 製品およびサービスのラベリング DMA P6,7,54,55 | | | |
| G4-PR5 | 顧客満足度調査の結果 | P55 (お客さまとのかわり) | |
| コンプライアンス DMA P117～121 | | | |
| G4-PR9 | 製品およびサービスの提供、使用に関する法律や規制の違反に対する相当額以上の罰金金額 | 該当なし | |

*DMA (Disclosures on Management Approach) : マテリアリティ (重要な側面) に関わる経済・環境・社会に対する企業のマネジメント方法